

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾  
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20  
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2016年  
11月号

Mathematics Abacus Chinese character

# MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

## 2035年には日本の会社から 「正社員」は消えている！？



2035年、世界の人口は現在の73億人から85億人まで増加するのに反して、日本は1.27億人から1.12億人に減少すると予測されています。

一方で長寿化が進むため、少子高齢化がさらに進み、現在の26.7%の高齢化率が33.4%まで拡大するとも言われています。

産業別就業者数の将来予測では、**情報通信業、医療・福祉、その他サービス**のみが増加と予測されており、その他の産業は軒並み減少となっています。医療・福祉をはじめとして、これから2035年に向けて、最先端技術を活用した効率化、省力化が実現され、付加価値のある新たなサービスが生まれてこなければなりません。

AI（人工知能）やロボットとの共存が当たり前になる20年後、日本の会社から正社員は消えている・・・。衝撃的な未来を予測した厚生労働省の報告書「**働き方の未来 2035**」が注目されています。

その報告書の中には、

2035年の企業は、極端に言えば、ミッションや目的が明確なプロジェクトの塊（かたまり）となり、多くの方は、プロジェクト期間内はその企業に所属するが、プロジェクトが終了するとともに、別の企業に所属するという形で、人が事業内容の変化に合わせて、柔軟に企業の内外を移動する形になっていくと予想されています。

その結果、企業組織の内と外との垣根は曖昧になり、企業組織が人を抱え込む「正社員」のようなスタイルは変化を迫られます。企業に所属する期間の長短や雇用保障の有無等によって「正社員」や「非正規社員」と区分することは意味を持たなくなるのです。

終身雇用と年功序列型の日本社会の象徴、正社員が将来的に消えてしまう・・・。

報告書を作成した懇談会事務局長を務めた柳川範之氏（東京大学大学院経済学研究科教授）はこう分析します。

「人口逆ピラミッド問題などで、会社が終身雇用を維持するのは、限界にきている。技術革新した20年後、どれだけの会社が生き残っているのでしょうか？ 今後は倒産、リストラなど正社員であっても安泰ではない。今までと違う働き方、安心が模索されるでしょう」

そして最近、こうした未来予想図へ近づこうとする企業の動きが目立っています。

中でもソフト開発大手、サイボウズの取り組みは、「時間や空間に縛られない働き方」の手本といえます。

同社の「選択型人事制度」では、勤務時間と勤務場所を段階的に組み合わせた9種類の働き方があり、ひと月ごとに選択し直すことが可能です。

たとえば「今月はオフィス勤務の時間を長く、在宅勤務を少なくしよう」「来月はオフィス勤務を短く、在宅勤務をやや多めにしよう」という具合に、その時々ライフスタイルに合わせて働き方を柔軟に選べるのです。このように時間や場所に縛られず働くことができれば、家事や育児、介護などと仕事を両立しやすく、副業もしやすくなります。

同社は06年からこうした働き方の改革を実行し、12年からは社員の副業も全面的に支

援。会社に損害を与える仕事でなければ、何をするのも自由で上司に報告する必要もない。給与は転職相場などから独自に算出され、定年はない。しかし、退職金も出ないといえます。

「50 歳を過ぎると給与は下がる傾向に。社員には会社に頼らなくても生きていけるよう自立することを求めています」（同社広報）とのこと。

このような働き方を求められる社会になったら、どんな人が必要とされるのでしょうか？

それは間違いなく「自立した、自ら考え、行動できる人」なのではないでしょうか？

## 東大合格請負人が「シェアハウス」 に情熱を注ぐ

東京都練馬区にある一軒家、その中に足を踏み入れると男子生徒がワイワイガヤガヤと議論する声が聞こえてきます。

そこは「東大合格シェアハウス」。東大合格を目指す学生が共同生活をしながら集団で合格を目指しています。募集は男性の浪人生のみ、月謝は授業料や家賃・食費等含め 20 万円近くになるこのシェアハウスには、10 名以上の学生が暮らしています。

このシェアハウスを主宰するのは「東大合格請負人」と言われている時田啓光氏。

時田氏はある取材で、なぜこのようなシェアハウスを始めたのかを語りました。

「勉強と生活習慣には大きな関係があります。朝何時に起きるとか、食事のタイミングはいつにするとかは、本来自分で決めるものです。それは勉強も同じで、期日や目標達成に必要なスキルの選定は、自分でやらなければなりません。でも多くの人が、普段から家事全般を親に任せっきり、親も『あなたは勉強だけしていればいいのよ』なので、自主性が伸びづらいのです。

私が今まで指導してきた中には、高校生になってもファストフード店で自分で注文ができなかったり、靴紐が結べなかったりする子もいました。

問題は、彼らが『できない』のではなく『やったことがない』ということ。すべてが受け身になっていて、今自分が何をしなければいけないのかを本人が自覚できないのです。」

なぜ合格のためにシェアハウスで共同生活をするのか？

それは共同生活を通して「自分で考える癖」を付けさせるのが狙いなのだとか。

このシェアハウスには進学塾や家庭教師を一通り経験した子が通います。彼らに共通した経験は「わかりやすい講義は何回も受けたことがある。でも身についた感じがしない」とか「理解できたはずなのに、家に帰るとなぜか解けない」という感覚です。

これは「与えられて、言われたことをやっただけ」で、自分で情報を掴んでいない（＝自主性が無い）から起こる感覚なのです。

## 自主性で大変身！

東大合格請負人！？シェアハウス！？という気持ちで記事を読み始めましたが、時田氏の方向性は、目指すレベルは違うといえMACと同じ方向性だと感じました。

「受け身」の子を「自主性」のある子に変えるのはとても大変です。それも、勉強が難しくなってからではそのシフトチェンジは非常に難しく、相当の時間と相当の本人の努力が必要になってきます。（あと、相当の指導者側の忍耐も・・・）それもあって、MACでは募集学年を原則「幼児～小3」とさせて頂いています。

それでも本当の意味での「自主的な学習」に繋がるのは個人差もありますが、中学に入ってからでしょうか。

以前のNEWSで「MACの生徒は中2～中3の頃にぐんと成績が伸びる子が多い」という内容を書きました。これはこの時期に、本当の意味での「自主的な学習」ができるようになるからなのです。

そのきっかけは、クラブで自分たちの代になり責任感を持ったとか、将来の夢が決まり志望校がはっきりしたなど、人様々です。

MACに通う生徒は、小1から自分で学習する順番を考えて学習を進めたりと、「自学自習」の方法はある程度身につけています。

学年が上がり、目標ができ、その目標を達成するための「手段」として勉強をするのだという、勉強の意味を見いだした時、本当の「自主的な学習」が始まり、一気に成績に反映されるのです。そこで小学生の頃から取り組んでいた「自学自習」の習慣が役にたちます。

そう考えると、このシェアハウスに通う大学生は共同生活を通して「考える癖」を付けようとされているので、その点ではMACの塾生の方が勝っているでしょうか（笑）

## 「お受験」を考える

小学校高学年になってくると「中学受験」を考えられるご家庭も出てくるかと思えます。少し「お受験」について考えてみたいと思います。

有名どころへの入学を考えると、ほとんどの入学者は大手進学塾出身者です。大手進学塾で考えた場合、小学4年生～6年生の3年間をかけて受験に挑むというケースが多いとのこと。

日系プレジデント調べによると、大手進学塾に小学4年生～6年生までの3年間通ったとすると、月謝・特別講習会等にかかる総費用は約230～250万円とのこと。（別の受験専門家のデータでも約250万と出ていました）

また、中学受験となるとどうしても知識を詰め込む形になるので、ほぼ毎日朝から晩

まで予習・授業・復習・宿題の毎日になり、本人も周りの家族の生活も激変します。当然、友だちと遊ぶ時間も、趣味に没頭する時間も無くなります。

その覚悟ができ、その生活に耐えられる子だけが合格できるのです。

知的探究心が非常に高く、分からない問題にぶち当たると目を輝かせて問題に取り組む。このようなタイプだと受験に向いているのですが、そうでないのに「お受験」をしてしまうと受験に失敗するどころか、勉強嫌いになり全く勉強しなくなった！というケースも少なくありません。

ある京都のトップ校の先生は

「うちに来る子の 7 割は大手進学塾出身者。しかし大手出身の子は『してもらおう』勉強に慣れているから、入学してからの伸びしろがない。もっと自分で学べる子が欲しい」

と、ぼやいておられました。

こんな話を聞いていると、多くのお金や多くの犠牲を払ってまで受験ってするものなのか？高校受験からで十分では？と考えてしまいます。

今の小・中学生たちが働き盛りになる 2035 年、厚生労働省の予測したような世の中になった場合、「してもらおう」教育に慣れ、主体的に考えて行動出来ない若者は社会で生き残っていけるのでしょうか？

学歴や成績はそこそこでも、自分で考えて、自分の判断で行動できること。

(当然そこに学歴や成績も付いてこれば鬼に金棒ですが)

それがM A Cの目指すところです。これは簡単なようで非常に難しいことです。そして、そのようになるには一朝一夕ではない、長期的な取り組みが必要となります。塾だけではなく、ご家庭での生活習慣から見直さなければならない問題なのです。

ご家庭でも「あーしなさい！こーしなさい！」ではなく、自分で考えて行動させる→失敗する→じゃあ、どうしたら成功できるか考えさせる。というサイクルをぜひ取り入れてみて下さい。すぐに成果を求めてはダメですよ、教育とは「忍耐」ですので・・・(笑)